

父子関係が青年期の愛着と攻撃性に与える影響

専攻 学校教育研究科 学校教育学専攻
コース 学校心理学コース
学籍番号 M10035K
氏名 福井 紫帆

【問題と目的】

これまで、親の子どもへの関わりは子どもの成長に大きな影響を与える事は言われてきた。とくに、母親の育児関与の重要性は多く研究され、菅原・伊藤（2006）では、大学生を対象とし幼少期の母子関係が青年期の自我形成に影響を及ぼすことに関する研究を行った。その結果、厳格—拒否型の親は子供の自尊感情向上や、対人不安増大を促したり、過保護—期待型の親は子供の自尊心を向上させ、対人不安を減少させる傾向にあることがわかった。しかし、これまで、青年期を対象とした発達の研究においては、母子関係に絞られていることが多く、父子関係が子どもの発達にどのような影響を与えているのか、といった事を検証する研究は少ない。そこで本研究では、父親が子に接する態度（養育態度）が青年期の個人の特性としての内的作業モデル（IWM）にどのように影響するのかを検討し、攻撃性にも着目して、父親の養育態度によって青年期の攻撃性の内容がどのように変化するのかを明らかにする。

【方法】

対象者：兵庫県下の国立大学、私立大学の計2大学の学生併せて122名（男子50名、女子72名）

材料：①母親・父親の養育態度測定尺度（宮下1991：Schaefer,1965を参考に宮下が作成）で計30項目からなり、父親の養育態度についてあてはまる傾向が強いほど高得点となるように、5—1点を付与した。②愛着測定（詫摩・戸田1988）の成人版愛着スタイル尺度で、3つの下位尺度（安定型・両価型・回避型）からなり、下位尺度6項目の計18項目で「非常にあてはまる」（4点）から「あてはまらない」（1点）までの4件法で回答をもとめた。

③攻撃性に関する尺度（菅野・吉田・小熊 1997）は2つの下位尺度（破壊的・建設的攻撃性）からなり、下位尺度8項目の計16項目で、「よくあてはまる」（4点）から「あてはまらない」（1点）までの4件法で回答を求めた。

手続き：国立大学の学生に対しては、授業時間を利用して一斉調査を実施。私立大学の学生に対しては、留置法で実施した。

【結果】

1. 各尺度の因子分析結果について
3つの尺度において主因子法・バリマックス回転をおこなった。

①母親・父親の養育態度測定尺度においては、今回は父親のみを測定した。「支持・肯定的態度」、「平等・公平態度」、「介入・統制的態度」の3因子が抽出された。②成人版愛着測定尺度では、先行研究と同様「安定型」「両価（アンビバレント）型」「回避型」の3因子が抽出された。③攻撃性に関する尺度において、「破壊的攻撃性」「建設的攻撃性」の2因子が抽出された。

2. 父親の養育態度と愛着、攻撃性の関係

父親の養育態度測定尺度の各因子の合計点の平均値以上をH群、平均値以下をL群として、父親の養育態度測定尺度水準と性別をそれぞれ独立変数とし、愛着の下位尺度（安定型・両価型・回避型）と攻撃性の下位尺度（破壊的・建設的）を従属変数とする2要因分散分析をおこなった。

「安定型愛着得点」において養育態度の主効果が有意であり（ $F(1, 118) = 7.13, p < .01$ ）、相対的に支持肯定的養育態度のH群がL群より有意に高かった。「両価型（アンビバレント）型愛着得点」について

性・養育態度の主効果が有意であった $F(1, 118)=5.08, p<.05, F(1, 118)=6.64, p<.05$ 。これより、両価型愛着得点では、男性が女性より有意に高くなり、養育態度のH群はL群より有意に高い事が示された。「回避型愛着得点」においては性の主効果がみられ ($F(1, 118)=4.08, p<.05$)、女性より男性が有意に高かった。

「安定型愛着得点」において養育態度の主効果が有意であり ($F(1, 118)=8.82, p<.01$)、相対的に平等・公平的養育態度のH群がL群より有意に高い得点が示された。「両価 (アンビバレント) 型愛着得点」では、性と養育態度の主効果が有意であり ($F(1, 118)=4.68, p<.05, F(1, 118)=8.37, p<.01$)、女性群より男性群の両価型愛着得点が高く、養育態度では相対的にL群よりH群の方が高い得点を示した。

「回避型愛着得点」においては、有意な主効果、交互作用はみられなかった。「安定型愛着得点」において、有意な主効果、交互作用はみられなかった。「両価 (アンビバレント) 型愛着得点」において性の主効果が有意であり ($F(1, 118)=7.45, p<.01$)、女性得点より男性得点の方が有意に高い得点を示した。

「回避型愛着得点」においても性の主効果が有意であり ($F(1, 118)=5.52, p<.05$)、女性得点より男性得点の方が有意に高い得点を示した。

建設的攻撃性において、父親の支持・肯定的養育態度の主効果がみられ ($F(1, 118)=7.39, p<.01$)、有意な性差は見られなかったが、性別と養育態度水準の交互作用が有意であった ($F(1, 118)=6.96, p<.01$)。単純集効果の検定の結果、女性群では養育態度の高低群間に有意差が生じなかったが、男性群では、低群に比べて有意に高群の建設的攻撃性得点が高い事がわかった ($F(1, 118)=13.65, p<.001$)。また、支持・肯定的養育態度の高群において、男女間に有意差がみられた ($F(1, 118)=7.91, p<.01$)。また同じく建設的攻撃性において、父親の公平・平等的養育態度の主効果がみられた ($F(1, 118)=7.84, p<.01$)。有意な性差は見られなかったが、性別と養育態度水準の交互作用が有意であった ($F(1, 118)=6.84, p<.05$)。単純集効果の検定の結果、支持・肯定的養育態度の場合

と同様に、女性群では養育態度の高低群間に有意差が生じなかったが、男性群では、低群に比べて有意に高群の建設的攻撃性得点が高い事がわかった ($F(1, 118)=13.32, p<.01$)。また、養育態度の高群において、男女間に有意差がみられた ($F(1, 118)=8.18, p<.01$)。

【考察】

以上の結果において、攻撃性については、父親の支持・肯定的そして平等・公平的な態度は、男性の建設的攻撃性に影響を与える事が確認された。男性に効果がみられたことについて、父親に対する同一視や同一化が考えられる。同一視を唱えたフロイト (1959) によれば、同一視とは他者の考えや態度、規範等を単に真似るのではなくて、その人全てを捉えることとし、子どもは、特に同性の親の特性を吸収し、それらを真似る事で自らを同化させると述べている。コールバーグ (1966) は、子どもが性におけるアイデンティティを確立した後、彼らは自発的に性役割やそれに適した価値観を育むとした上で、両親は彼らの子どもたちのモデルとなり、それと同時に子どもとの間に愛着が芽生え、同一化を促進すると述べている。つまり、女性より男性の方が父親の養育態度によって影響を受けるのは、同性である父親を身近に感じ、情的なつながりをより強く感じるからと考えるのは妥当であろう。

Table4 父親の養育態度下位尺度別の性と群における愛着得点平均及USD

| | 群 | 性 | N | 安定型 | | アンビバレント型 | | 回避型 | |
|----------|----|---|----|-------|------|----------|------|-------|------|
| | | | | mean | SD | mean | SD | mean | SD |
| 支持・肯定的態度 | L群 | 男 | 21 | 11.38 | 3.92 | 14.90 | 3.73 | 11.10 | 3.21 |
| | | 女 | 18 | 11.83 | 3.47 | 12.72 | 3.46 | 10.06 | 2.60 |
| | H群 | 男 | 29 | 13.76 | 3.94 | 12.48 | 4.51 | 11.14 | 2.81 |
| | | 女 | 54 | 13.31 | 3.45 | 11.33 | 3.37 | 9.72 | 3.29 |
| 平等・公平的態度 | L群 | 男 | 24 | 11.67 | 4.04 | 14.75 | 3.55 | 10.96 | 3.14 |
| | | 女 | 22 | 11.55 | 3.84 | 12.86 | 3.50 | 10.36 | 2.67 |
| | H群 | 男 | 26 | 13.77 | 3.90 | 12.95 | 4.72 | 11.27 | 2.82 |
| | | 女 | 50 | 13.56 | 3.17 | 11.16 | 3.29 | 9.56 | 3.30 |
| 介入・統制的態度 | L群 | 男 | 23 | 13.26 | 3.96 | 13.13 | 4.07 | 11.52 | 2.71 |
| | | 女 | 29 | 13.07 | 3.92 | 10.83 | 3.23 | 9.83 | 3.26 |
| | H群 | 男 | 27 | 12.33 | 4.19 | 13.81 | 4.59 | 10.78 | 3.15 |
| | | 女 | 43 | 12.88 | 3.21 | 12.26 | 3.47 | 9.79 | 3.06 |

Table5 父親の養育態度下位尺度別の性と群における攻撃性得点平均及USD

| | 群 | 性 | N | 建設的攻撃性 | | 破壊的攻撃性 | |
|----------|----|---|----|--------|------|--------|------|
| | | | | mean | SD | mean | SD |
| 支持・肯定的態度 | L群 | 男 | 21 | 8.24 | 2.34 | 15.67 | 4.99 |
| | | 女 | 18 | 9.17 | 2.48 | 11.17 | 3.20 |
| | H群 | 男 | 29 | 10.72 | 2.66 | 13.34 | 4.21 |
| | | 女 | 54 | 9.20 | 2.13 | 11.37 | 3.25 |
| 平等・公平的態度 | L群 | 男 | 24 | 8.42 | 2.06 | 15.75 | 4.39 |
| | | 女 | 22 | 9.14 | 2.66 | 11.59 | 3.22 |
| | H群 | 男 | 26 | 10.85 | 2.90 | 13.00 | 4.58 |
| | | 女 | 50 | 9.22 | 1.99 | 11.20 | 3.25 |
| 介入・統制的態度 | L群 | 男 | 23 | 9.83 | 3.17 | 14.26 | 4.74 |
| | | 女 | 27 | 8.28 | 2.80 | 11.24 | 3.50 |
| | H群 | 男 | 29 | 9.56 | 2.49 | 14.37 | 4.67 |
| | | 女 | 43 | 9.14 | 1.91 | 11.37 | 3.06 |

主任指導教員 浅川潔司
指導教員 浅川潔司